

動物の種類別、仕上げの種類別による皮革の一覧表

種類		種類	特徴	用途	
動物の種類	牛	子牛	カーフスキン	生後6ヶ月ぐらいまでの子牛の革。薄くキメが細やか。しなやかで傷が少ない。	靴甲革、袋物、手袋、衣料用など
		中牛	キップスキン	生後6ヶ月～2年ぐらいまでの牛の革。カーフよりもややキメは粗いが、それだけ厚く強い。	
		成牛	カウ・ハイド	既産した生後2年ぐらいの雌(めす)牛の革。厚く強い。	靴甲革、靴底革、袋物、かばん、家具工業用ベルトなど
			ステア・ハイド	生後3～6ヶ月に去勢し、2年以上経た雄(おす)の成牛の革。厚く強い。	
			ブル・ハイド	生後3年以上の繁殖用の雄牛の革。厚手でキメも粗い。	
	水牛	バッファロー	皮質は厚く粗いが、独自の味わいがあり丈夫。	袋物、ベルト、小物など	
	馬		判が大きく柔らかさが特徴。なお、馬の尻の部分にタンニン鞣したコードバンは光沢と強さで定評がある。	靴甲革、靴裏革、袋物、衣料用など	
	豚	ピッグスキン	牛革について利用範囲が広く、摩擦に強い。クロム鞣し、タンニン鞣しがある。	靴甲革、靴裏革、かばん袋物、ベルト、衣料用など	
	山羊	ゴートスキン	薄くて柔らかで丈夫。毛穴の形に特徴がある。子山羊革をキッドスキンという。	靴甲革、袋物など	
	羊	シープスキン	丈夫さではゴートに劣るが、軽くて柔らかで防寒衣料として優れている。子羊革をラムスキンという。 [ヘアーシープ：肉用種 ウールシープ：毛用種]	靴甲革、袋物、手袋、衣料用など	
鹿	ディアスキン	柔軟で通気性に優れ、伸びても元に戻るという優れた特性を持つ。(洗っても硬くならない)	袋物、手袋など		
カンガルー	カンガルースキン	オーストラリアから輸入される。柔軟で組織は緻密。ぎん面は硬く締まり強度があり丈夫で軽い。	高級靴甲革、手袋、スパイク甲革など		
仕上げの種類	ぎんつき革		良質の原皮を皮本来の風合いを失わないように鞣し、染色し仕上げたもの。	靴甲革、袋物、ベルト、衣料用など	
	ガラス張り革		成牛皮を原料とし、なめし工程の後、ガラス板、ホーロー板に張り付けて乾燥、ぎん面をサンドペーパーでこすって表面に合成樹脂を塗布したもの。	靴甲革、かばん、袋物、ベルトなど	
	シュリンクレザー		鞣し工程中で、薬品によって表面を縮ませ、ぎん面に変化をもたせた革	靴甲革、袋物、ベルトなど	
	スエード		革の裏面を細かいサンドペーパーでこすって起毛させたもの。毛足が短く、柔らかな手触りが特徴。	靴甲革、袋物、衣料用など	
	ベロア		革の裏面を起毛させるのはスエードと同じだが、スエードより毛足が長くやや粗い。	靴甲革、衣料用など	
	ヌバツク		牛革のぎん面をこすって、ベルベットのような手触りに仕上げたもの。スエードより毛足が短い。	靴甲革、袋物、ベルトなど	
	パテントレザー		鞣した革の表面に油脂または合成樹脂を塗って光沢を出した革。(エナメル)	靴甲革、袋物、ベルトなど	
	型押し革		革の表面に加熱高压プレスで、ワニ、オーストリッチなど色々な型やシボをつけたもの。	靴甲革、かばん、袋物、ベルトなど	
	底革		成牛皮や水牛皮をタンニン鞣した、厚く硬い、なめし革。	靴底など	
	多脂革		ぬめ革よりタンニンを多く使って鞣し、厚く、多量の油をしみ込ませたもの。	工業用、馬具など	
	ぬめ革		底革より、やや薄くタンニン鞣したもので、底革より柔らかく仕上げたもの。	靴甲革、かばん、ベルト、革手芸用など	
床革		革のぎん面層を漉(す)いて、取り除いた残りの部分。	かばん、各種ケース、各種の芯材など		